

GHS に基づく化学物質の危険有害性分類結果



国連が勧告した化学品の危険有害性情報提供制度「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」(GHS:Globally Harmonized System)にもとづく国の化学物質分類結果データベース化事業で、246 物質の分類結果などが 2006 年 4 月 28 日までに、第 3 回公表分として製品評価技術基盤機構化学物質管理センターの Web ページから公開されました。

GHS は、化学品の危険有害性ごとに、世界的に統一されたルールに従ったラベル表示や安全データシートを提供していかうとする取組みで、国連が 2003 年に勧告を行い、国際的にはアジア太平洋経済協力(APEC)諸国間では 2006 年までの実施、ヨハネスブルグサミットでは 2008 年までの実施が目標とされています。

国のデータベース化事業では、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法、化学物質排出把握管理促進法の化学物質等安全データシート(MSDS)交付対象物質、ロッテルダム条約附属書 3 掲載物質、化審法第 2 種特定化学物質の約 1500 物質を対象に、環境省のほか、消防庁、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省が参画する 6 省庁の連絡会議が作成したマニュアルに沿って分類が進められています。

今回公表された 246 物質は労働安全衛生法、化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)に関する物質です。なお GHS 関係省庁では、約 1500 物質の GHS 分類を 2006 年中に全て終了したいと考えて、今後、毎月末に分類結果を公表するとしています。

当社では今回公表された労働安全衛生法および化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)に関する物質の分析を行っております。ぜひ一度ご相談ください。

資料 2006 年 4 月 28 日付 EIC ネット

機器分析箇所 有賀久枝